

発行者 福井県PTA連合会 会長 田本憲恭 広報委員会
発行所 〒918-8135 福井市下六条町14-1 (福井県生活学習館2階) TEL 0776-41-4253 FAX 0776-41-4333
HP <http://www.fukui-pta.jp> (公社) 日本PTA全国協議会 <http://www.nippon-pta.or.jp/>
E-mail mail@fukui-pta.jp

H27.10
111号



福井県PTA



ひろがれ 子の未来! つながれ 親力! ~今札幌から始まる これからのPTA~
第63回日本PTA全国研究大会 札幌大会
第62回日本PTA北海道ブロック研究大会

ようこそ!
札幌へ

ようこそ!
札幌へ

会長あいさつ
福井県幼・小・中PTA活動地区別研修会
国内研修 in 渡嘉敷島
第63回日本PTA全国研究大会 in 札幌
ドクター通信 熱中症
こんなことやってます

PTA活動中の事故の防止を。万が一事故が
起きたら、一報を。(届出は30日以内)
福井県PTA連合会安全会 ☎ 0776・41・4253

福井・永平寺地区

福井・永平寺ブロック長 佐々木 敦子
福井県生活学習館

福井・永平寺地区研修会が、福井県生活学習館にて開催されました。

元立待小学校教諭の岩堀美雪先生を講師にお迎えし「幸せになるこころの育て方」と題して講演をいただきました。

子どもたちが、友だちの良い所を探し、褒め合い、認め合うといった素敵な所を書き出す宝物ファイルを作ると、自ずと温かい目で相手のことを考えるようになり、いじめのない教室、いじめのない社会が形成されていくことを話されました。また講演の最後に岩堀先生が作詞された「ありがと」を歌って下さいました。「ただ真っ直ぐに幸せに母さんの子どもでいてくれてありがと」の歌詞に心の底からこみ上げてくる子どもたちの愛しさで涙があふれました。会場全体が温かい思いに包まれた感動の講演会でした。

そして、二校のPTAの実践発表。藤島幼稚園保護者会の皆様には、「笑顔でつながる楽しい保護者会活動を目指して」をテーマに、父と子の「わんぱくクラブ」の結成など父親企画の活動を紹介していただきました。

松本小学校PTAの皆様は、子どもたちの為に中庭を明るく楽しい遊び場にしようと保護者自ら設計から施工まで、子どもたちが地域の皆様と共に造りあげてきた様子を発表。実行委員長さんの「この木ランドも中庭委員会の仲間も永遠に維持します。」素敵なお話、発表に会場が感激しました。

明倫中学校PTAの皆様は、校区内で発生した不審者事件から地域の幅広い見守り活動が必要と、保護者や地域住民に呼びかけ三年がかりで取り組んだ活動を発表。地域の方々の信頼を得て実績を積み重ね、不審者ゼロに近づけてきた。青色防犯パトロールカーも自分たちで設置し、地域の安心・安全には確固たる自信をもっている。自ら積極的に地域に関わっていくことで、地域の思いが変わっていくことを発表して下さいました。

子どもたちの為にひとつひとつ地道な活動を続けていく先に、確かな未来があることを改めて感じることができた研修会でした。

幸せになるこころの育て方



会長あいさつ

福井県PTA連合会
会長 田本 憲恭

県内各地のPTA会員の皆様におかれましては、日頃より子どもたちのため、安心安全な生活・笑顔あふれる環境づくりに奮闘され、また、福井県PTA連合会(以下県PTA)の方針や活動にご理解ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。平成27年度も引き続き、育もう、子どもと共に感謝と「勇氣」チャレンジ・チャレンジ・コミュニケーションのPTAのスローガンのもと、新役員と共に協調の精神を持ち何事にも前向き元気に取り組んでいきます。折角の機会ですので皆様に県PTAの活動内容をお知らせしたいと思います。

- 1 研究・研修活動**
地区別研修会を開催し、県PTA研究大会をより発展・充実し開催する。平成29年度日本PTA東海北陸ブロック研究大会福井県敦賀大会の準備を推進する。
- 2 広報・調査活動**
広報紙「PTAの歩み」を発行する。広報紙講習会を再検討する。ホームページの充実にも努める。
- 3 家庭教育支援・青少年育成事業**
「我が家の三原則」一筆啓上運動を継続する。子どもたちのネット環境改善のため、講習会・講演会を実施する。また、安全確保のための事業を構築し、昨年立ち上げた県PTA総合保障制度の普及に努める。
- 4 表彰事業**
優良PTA、功労者、広報紙コンクール等への表彰を行う。
- 5 県PTAゆめ基金(書き損じはがきを収集し、原資として)**
有意義なPTA活動、小規模校PTA等の活動支援やアジアの子どもたちの就学援助等を実施する。
- 6 対外要請・請願活動**
「特別支援教育事業を支援する。災害被災時などに支援活動を行う。安全や教育条件整備について、関係機関等への要請活動を行う。
- 7 安全会制度**
会員相互の福利とPTA活動を支援し、見舞金制度を充実する。
- 8 委員会活動の推進**
県PTAの適正な運営を図るために、委員会・会議等による連絡・協議・研究・調査・調整・活動等を行う。



平成27年度 福井県幼・小・中

PTA活動地区別研修会

実施報告

奥越地区

奥越ブロック長 白木 利明
勝山市健康福祉センターすこやか

奥越地区研修会は6月27日(土)に開催されました。講師として敦賀市子ども発達支援センターパラルレル副管理者の長谷川直子さんによる「今、子どもが危ないー発達障がい児の子どもたちから学べること」をテーマに、父と子の「わんぱくクラブ」の結成など父親企画の活動を紹介していただきました。

松本小学校PTAの皆様は、子どもたちの為に中庭を明るく楽しい遊び場にしようと保護者自ら設計から施工まで、子どもたちが地域の皆様と共に造りあげてきた様子を発表。実行委員長さんの「この木ランドも中庭委員会の仲間も永遠に維持します。」素敵なお話、発表に会場が感激しました。

明倫中学校PTAの皆様は、校区内で発生した不審者事件から地域の幅広い見守り活動が必要と、保護者や地域住民に呼びかけ三年がかりで取り組んだ活動を発表。地域の方々の信頼を得て実績を積み重ね、不審者ゼロに近づけてきた。青色防犯パトロールカーも自分たちで設置し、地域の安心・安全には確固たる自信をもっている。自ら積極的に地域に関わっていくことで、地域の思いが変わっていくことを発表して下さいました。



今、子どもが危ないー

発達障がい児の子どもたちから学べること

坂井地区

坂井ブロック長 酒井 信治
坂井市いきいきプラザ霞の郷

平成27年6月13日(土)坂井市教育長 川元利夫様を来賓としてお迎えし、坂井地区研修会を開催いたしました。坂井地区(坂井市・あわら市)PTAの約150人の皆様にご参加を頂き盛大に行うことが出来ました。誠にありがとうございました。

教育講演では、「まだ間に合う『眼育』のすすめ」子ども睡眠が危ない!という演題にてNPO法人里豊夢わかさ 理事長 前田勉様に講演を頂きました。子どもにとっての睡眠は脳を創り、脳を育て、脳を守る働きがあり、睡眠の重要性を学ぶことが出来ました。正しく「寝る子は育つ」三つ子の魂百まで」ということでした。

実践発表会では就将会(じゅしょうかい)坂井市立三国北小学校PTAが「北つ子のために」をテーマに、分団という従来の子供会活動を通して同じ地区の仲間たちと、縦や横のつながりを深め、成長することを目的とする活動を発表されました。

坂井市立坂井中学校PTAは「積極的なPTA活動を目指して」をテーマに、PTAの皆様にも、まずは学校に足を運んでもらい、お互いに顔を合わせてもらうことを一番に考えるよう活動を見直し取り組んだことを発表されました。

今後も坂井地区PTAの皆様におかれましては、子どもたちの成長だけでなく、地域の発展のために協力ください。よろしくお願い申し上げます。



まだ間に合う『眼育』のすすめ 子どもの睡眠が危ない!

全体会

福井県PTA連合会副会長 佐々木 英江

8月21・22日札幌市内を中心に第63回日本PTA全国研究大会札幌大会が開催され福井県から16名が参加しました。2日目の全体会は北海道立総合体育センターを会場に、平岸天神ジュニアによるよさこいで幕開けしました。

その後、記念講演では「あなたは子どもたちの想像力を育てていますか」と題し、脚本家倉本聰氏に、幼少期に体験した戦時中の学童疎開を通し、友達といるるな知恵を出し合い「生きていく」ということや「世の中の仕組み」を学び、自然の中で体験することから得た五感(視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚)をもとに想像力と親子が子と与える環境の影響の重要性について講演いただきました。改めて、現代社会環境が子どもにも与える影響の重さや、知恵と想像力を働かせ生きるといふ原点は家庭教育が土台になることなど、多くを学び得ることができました。最後に、2日間に渡って開催された今大会の成果をまとめた「大会宣言」を承認し札幌大会は幕を閉じました。



第63回日本PTA全国研究大会 札幌大会

平成27年8月21日(金)・22日(土)

参加レポート

その中で、武田氏の「全ての会員がOKとする活動を望むことは難しく、2割は反対するものと思えば、組織運営はやり易い」という言葉は、これからのPTA活動を一歩でも二歩でも前に進めていく上で、必要な考え方の一つとして参考になる発表でした。

また、実践発表では、札幌市立大学デザイン学部准教授の武田巨明氏による、「改革・変化・協力」札幌市立三角山小学校PTA見直し委員会の取り組みから」と題して、PTA活動を外部から見直すことで、自分たちでは気付かなかったことを発見し、「それぞれのできること」を基盤とするPTAを実現した活動を発表して頂きました。

第一分科会 組織運営

福井県PTA連合会副会長 長田 隆

第1分科会では「チーム力の育み方」を研究課題として、PTAの組織が「子どもたちのため」の主体的活動であることを認識し、いかにして「魅力あるチームづくり」をしていくのかが問われた分科会でした。基調講演では、南極料理人の西村淳氏を講師に迎えて、「南極観測隊」というチームと題し、南極という厳しい環境下における任務を遂行するために必要な一人の力、工夫する力の重要性について、講演頂きました。特に、「みんな一緒に帰国すること」が南極観測隊における一番の目的とされている中で、チーム力というのは、無理して作り上げるものではなく、目的に向かって結果することによって自然にできるものであり、まさに、「個の力の集合がチーム力」であることに気付かされた西村氏は熱く語られていました。そして、「各分野の専門家で構成されるメンバーであっても、個々人は他分野の素人であり、この素人の発想が、思い込みの枠を取払う大きな力になる」という話は、役員だけの活動になりがちなPTAの組織運営にも、十分当てはめることができ、新たな気付きを得ることができるとも印象深いものでした。



嶺南地区

嶺南ブロック長 長田 隆
高浜町文化会館

平成27年6月28日(日)に高浜町文化会館にて、高浜町教育長 永登三夫様をお迎えするとともに、嶺南地域の各小・中学校から約200名の参加者が集い、嶺南地区研修会を開催しました。講演会では、福井県立大学看護福祉学部准教授の吉弘淳一氏を講師に迎え、「子どもとのコミュニケーションのとり方」と題し、司会者とのロールプレイングも交えながら、第一反抗期といわれる幼児期から、第二反抗期の思春期までの関わり方について講演を頂きました。特に、子どもとの関わり方については、年齢によって「ほめ方」を変え、その必要性や社会生活を営む上で必要なしつけは「余裕のないところ」に存在しないといふ、親の取る行動一つひとつが、如何に子どもにも影響を与えるかということに非常に分かり易く説明して頂きました。実践発表では、気山小学校PTAから「家庭・学校・地域 スクラム組んで子どもたちを育て隊」のふれあいをしかけるPTA活動をテーマに、積極的に地域とのふれあいを実践する中で、保護者の参加も促し、地域の良さを再発見するとともに、親子がふれあう時間を充実させていく活動について発表されました。また、和田小学校PTAから「学校・地域・家庭の共通目標」子どもたちの成長に向けてをテーマに、地域性を活かした若狭和海水浴場での砂浜運動会や全校児童参加の親子ふれあい活動の取り組みを中心に、ふるさと愛への期待について発表されました。両校とも、地域との連携を大切に、地域全体で子どもたちの成長に期待している思いがとてよく伝わりました。発表後は、活発な質疑応答もあり、PTA会員の積極的な姿勢を伺うこともできました。



スクラム組んで子どもたちを育て隊

平成27年度 福井県幼・小・中 PTA活動地区別研修会 実施報告

丹南地区

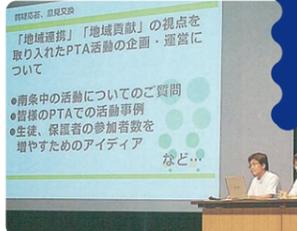
丹南ブロック長 藤本 昌則
南越前町文化センター



7月5日(日)南越前町文化センターにて、地区内から約200名の保護者、教職員が集い、丹南地区研修会が開催されました。開会行事に続き「睡眠と子どもの健康」眠りのしくみと役割」と題して、福井県立大学看護福祉部教授の有田広美氏から講演をいただき、子どもたちの成長発達時期の睡眠の取り方や、快眠のポイントなど睡眠の大切さを再認識しました。実践発表にうつり、最初に越前市国高小学校PTAの「フワッとつながって、ギュッと話しあって、ドカン！」と

実行する」と題した発表が行われました。続いて南越前町立南条中学校愛友会の「地域とPTA活動をつなげることでどのようなことがうまれるのだろう」と題した発表が行われました。いずれの発表も、地域との連携を持ったPTAにするために、今何が必要なかを会場の参加者に熱く語りかけ、その後の意見交換も活発に行われ、大変有意義な研修会となりました。

睡眠と子どもの健康 眠りのしくみと役割



第2分科会 家庭教育

福井県PTA連合会 環境委員長
田辺 寛之

「家庭が教育の原点であること」、それは間違いありません。しかし、家庭教育といっても様々な環境があり、その中身が最も大切なのではないでしょうか。昨今、子どもたちが巻き込まれる事件が多く発生し、中には最悪の結果となる事件もあり、報道されるたびに心を痛めます。家庭内での会話の代わりにSNSによるやり取り、子どもだけで夜中に外出など、家庭内での何が足りないから起こるのです。足りないもの、それは「愛情」ではないでしょうか。札幌市円山動物園園長 田中俊成氏の基調講演、動物との関わりから見えるもの、それは人間も動物も同じく、子どもを愛情いっぱい育てることなのです。そして、それが「親力」となり、家庭力を高めることになるのです。

実践発表による、「家庭、学校、地域の連携」への取り組みについても、すべての基本となるもの、それは家庭力だと。それぞれの家庭が、子どもを愛情いっぱい育て、心豊かな優しい子どもを育て、明るい子どもの未来を見つめましょう。



第6分科会 人権教育

福井県PTA連合会 副会長
佐々木 敦子

「夢を思い続ける事が大事。努力し、挑戦し続ける事が夢に近づいていける。」と祖父母、家族も応援してくれた事をお話されました。

第6分科会において、植松努氏のご講演「思うは招くー夢があれば何でもできるー」を学ばせていただきました。紙飛行機が大好きだった植松少年が思い描いた夢、「ロケット」を打ち上げた「いー」。周りの先生や大人に、「実現するはずがない、どうせ無理」と言われ続けました。しかし「出来ない理由を探すのではなく、出来る理由を探そう！ だったらこうしてみれば！」と前向きに努力されました。

植松氏は現在、日本で唯一、人工衛星を打ち上げる開発に成功されています。そして、夢をあきらめない事の大切さを子どもたちに伝える活動をされています。

「自分の能力で実際に出来る事だけをしていく事は、失敗もないが、成功もない。手を伸ばし努力と挑戦を続ける事が成長になり夢に近づけるのだ！」

植松先生の力強いメッセージが心に響きました。子どもたちの可能性や夢を奪う大人ではなく、子どもたちを支え、応援出来る大人でいたい。子どもたちにとって家族の応援はどれほど大きな励みとなる事でしょう。生きる力、親のあり方を考えさせていただきました。



第63回 日本 P T A 全国研究大会

平成27年8月21日(金)・22日(土)

参加レポート

第5分科会 地域連携

福井県PTA連合会 副会長
丸岡 樹善

真夏の本州を離れ、爽やかな北海道の夏らしい札幌市内での研修会。初日の研究大会は第5分科会に参加しました。

オープニングは札幌市屯田中央中学校吹奏楽部による素晴らしい演奏で始まりました。開会式に引き続き基調講演は、俳優の大泉洋さんの父親で札幌中村記念病院付属看護学校非常勤講師の大泉恒彦氏のご講演でした。

自身の教員生活、特に盲学校での勤務経験からハンデを負う生徒との触れ合いの中から生まれたエピソード等を交えて教師・親のあり方を俳優大泉洋さんの子育てエピソードも交えながら楽しくご講演頂きました。後半は札幌市内二校の実践発表に引き続きパネルディスカッション、「子ども一人一人を育むための『地域連携』のあり方」についてコーディネーター 田川修三氏(北海道教育大学岩見沢特任教授)の軽快でユーモアあふれる進行でパネリストと意見交換。私たち大人は子どもたちを「受容する」「待つ」「良さを引き出す」「一緒に活動する」という事が大切ではないかとのまとめにて終了しました。



今回参加した研究大会で気付いたことを地域に持ち帰り、実践していきたいと思うと同時に、携わっていた皆様の笑顔が忘れられない大会でした。



特別第1分科会

日本PTA全国協議会担当
福井県PTA連合会副会長
酒井 信治

特別第1分科会の研究課題は「子の未来(ゆめ)を知り、支援する保護者の力」でした。

開会式の直後に、札幌市立栄中学校生徒による和太鼓と、札幌市立札幌北中学校生徒による吹奏楽の演奏があり、両校とも道産子の力強さを感じられる素晴らしい演奏で感動しました。その後、千堂あきほさん(女優・タレント)の対談を聞かせていただきました。歌手デビューという夢を掴むまでの経緯と、夢を掴んだ後の苦労話をされておりましたが、とても参考になるお話でした。

午後からのパネルディスカッションでは、中学生が日本の未来(ゆめ)をあつく語るといふことで、札幌市内の中学生(男女5名)がステージに上がり意見発表を行いました。5名とも八キ八キと自分の意見を発表し、その中にも中学生らしい発言があり、とても新鮮さを感じました。

その後、大人3名のパネリストとのディスカッションが行われました。今大会の内容を参考に、福井県PTA連合会として、子どもたちの未来(ゆめ)にどのような支援、力を貸すことが出来るかを皆で考えていきたいと思います。

札幌の子どもたちからたくさんのお話をいただきました。本研究大会に参加させていただきまして誠にありがとうございました。



特集 熱中症 ドクター通信

福井県PTA連合会 安全審査委員 (田中病院院長) 田中 廣昌



発生のメカニズム

人間の体は、皮膚からの放熱や発汗によって体温を下げますが、外気が皮膚温度以上の時や湿度が高いと、脳の体温を正常に保つとする体温調節機能が破綻し、放熱や発汗がしにくくなり熱中症を引き起こします。その原因や症状などによって次のように分類されています。

熱中症

今年から新聞やテレビで「熱中症予防情報」とか「熱中症搬送者数」が発表されるようになり、ニュースになるようになりまし。長湯などをして気分が悪くなったり、体に異常が生じることを湯中(ゆあたり)といいます。熱中症は暑熱環境の中で発生する障害の総称で、熱中(あた)り、具合の悪くなる疾患のことです。

最近の気温は体温を超え、40℃を超えることも珍しくなくなり、一日の搬送患者が全国で千人を超える日も稀ではなくなりました。これまで熱射病や日射病と呼ばれていましたが、急激な患者さんの増加に危機感を募らせた環境省が、国民の注意を喚起するために、5月中旬から10月中旬まで熱中症情報を毎日公表するようになりました。

国内研修 in 渡嘉敷島

日本PTA全国協議会が主催のもと、平成27年3月26日(木)~3月29日(日)3泊4日にて、国内研修in渡嘉敷島が開催されました。福井県より参加した2名の生徒から感想文を頂きましたのでご紹介します。



また会おう!

鯖江市中央中学校 川江 萌々香



沖縄県の離島渡嘉敷島で3泊4日の研修事業に行ってきました。全国の中学2年生、116人が集まりました。島では海に行き、サンゴの真っ白な砂浜と綺麗すぎる透明な海と魚を見て感動してきました。伝統の三線体験や島の皆さんとの大交流会など、どの活動もすごく楽しく、渡嘉敷島の魅力をたくさん知ることが出来ました。北は北海道、南は沖縄から来た色々な子と交流が出来ました。特に同じ班になった子とは、釜でカレーライスと一緒に頑張った作ったり、自由時間に皆で集ってトランプをしたり、お菓子をつまみながらお喋りをしたりして、すごく仲良くなりました。最後には「また会おう!」と約束して皆で涙を流しながらのお別れとなりました。とても大切な思い出が出来ました。この研修では、普段は出来ない経験をすることが出来ました。この経験を生かして、これから色々な事にチャレンジしていきたいです。



最高の思い出

鯖江市中央中学校 橋 建吾

今回の研修で一番楽しかったのは、3日目でした。これまでの2日間は天候にめぐまれなかったのですが、あまり沖縄に来た感じがしなかったけど、晴れた海を見てやっと沖縄に来たという感じがしました。そして、予定より一日おそい海洋研修が楽しみでした。まず最初は、2人乗りのカヤックに乗りました。一緒にクラスの友達と2人で協力してこいで、渡嘉敷島のきれいな海と山を見ることが出来ました。その後はスーパーフロアとか二十人乗りカヌーなどをしましたが、中でもシユノーケリングは水中で魚やサンゴなどを見たのでとてもきれいでした。インギンチャクの中にクマノミがいるのを見ることができたのは図鑑とかで見ているものが実際に見る事ができたので感動しました。午後はワークショップで僕はエイサーを踊ることになりました。自分は踊ることが得意ではないし、夜には発表をしようと聞いたので、不安でいっぱいでした。島の方々が見て下さったエイサーを見て、太鼓のリズムや足の動きがいろいろあって難しそうだなあと思っていたけど、島の方々がやさしく分かりやすく教えて下さったので、踊れるようになりました。



そして各ワークショップの発表がある大交流会が始まりました。初めはおいしい料理や他の班の発表を楽しんでいたけど、後半はほとんど他のエイサーの子と練習をしていました。そしていよいよ発表、エイサーは最後の発表だったので、緊張で練習どおりできずに失敗が多かったです。みんな楽しんで踊れたので良かったです。今回の研修では、全てうまくいったわけじゃないけど、たくさんの方達と楽しい思い出を作ることが出来ました。これからこの研修のようにいろいろチャレンジしたいです。

① 熱痙攣

多量の発汗があるときに水分のみを補給し、塩分を補給しないと、絶対的な塩分不足となり、筋肉の疼痛や痙攣が起ります。これを熱痙攣といいます。

② 熱失神

高温環境下での作業や運動時には、熱を放散するため皮膚や筋肉への血流量が増加します。その結果、全身への循環血液量が少なくなり、一時的に脳の虚血が起こり、失神を起すことがあります。

③ 熱疲労

一種の脱水症で、多量の発汗がある場合、水分と塩分が十分に補給されない状態で発症します。

④ 熱射病

高温環境下での作業や運動時に、熱放散が熱産生に追いつかず、体温調節機能が破綻し、体温が異常上昇、そのままでは死に至る極めて危険な状態になります。これが熱射病です。直射日光によって引き起こされた場合を日射病といいます。

熱中症の予防

熱中症の発症要因は環境、個体、運動・作業などの要因に分けられ、要因に対する適切な対策をとることによって、予防することが可能です。

① 環境要因

環境条件を把握し、その危険度を知ることです。環境条件の指標として気温、湿度、気流、輻射熱などがあり、日の当たらない室内でも発症します。熱中症予防のための指針としてWGBT(湿球黒球温度)が有用です。WGBTは「暑さ指数」として、熱中症を予防することを目的として提案され、気温、湿度、周辺の熱環境を取り入れた指標で環境省からも発表されています。

② 個体要因

個体要因の対策としては、暑熱馴化、水分補給、衣服、健康状態の把握・管理などがあります。特に暑さに馴れることにより暑熱ストレスに対する抵抗力が高まります。夏の高校野球を観ていると暑熱馴化の重要性を痛感します。

③ 運動要因

高温環境下では多量の発汗が生じ、体内から水分と塩分が失われますが、このとき水分や塩分を補給しないと脱水となり、熱中症が誘発されます。運動や作業・労働要因への対策は環境要因や個体要因を考慮し個々の特性に応じたものにする必要があります。

救急処置

熱中症は、はじめ軽症と判断しても適切な処置が行なわれないと重症化することがあります。軽症の場合は、涼しい風通しの良い場所で衣服を脱がせて寝かせ、水分と塩分を経口補給すれば通常は回復します。ただし、経口補給が出来ない場合や頭痛、嘔気嘔吐、意識障害など重症化が認められる場合はすみやかに医療機関へ搬送しましょう。最近の異常気象は想像を絶するようなどころがあり、今後益々その傾向は強くなるものと思われ、世界的に根本的な対応策を考えなければならない時代が到来することでしょう。



嶺南フロック

高浜町立高浜小学校PTA



朝のあいさつ運動

高浜町立高浜小学校では、以前からPTAの役員と学校の先生が一緒に当番を決めて、毎朝子どもたちが登校するときに、校門に立ちあいさつ運動を行っています。「おはようございます」と言葉を交わすことで、子どもたちから1日分の元気をもらえていると思います。

しかし、これまで子どもたちは歩きながらということもあり、小さい声でしかあいさつしてこない子や目を合わせずにあいさつする子もいました。PTAの会議の中でも、子どもたちにもう少し大きな声であいさつをしてもらいたいという意見がありました。そこで会議の中で出した意見を参考に、昨年までの歩きながらあいさつするのではなく、一度立ち止まり、お互いに向き合い、登校の班ごとにあいさつをする方法にやり方を変更しました。初めはお互いに戸惑ったところもありましたが、回数を重ねていくうちに高学年の班長のあいさつに続いて、班の子どもたちも続けてあいさつしてくれました。昨年より大きな声であいさつしてくれようになり、また顔を見てあいさつできるようになりました。

今後、もうあいつの方法を考え、子どもも大人も1日を気分よく始められるように、学校と協力しながら続けていきたいと思っています。



おはようございます!

こんなことやってます

福井・永平寺フロック

福井市PTA連合会

子どもたちの笑顔の為に

今年度、福井市PTA連合会会長を務めています佐々木敦子です。平成27年度活動入ローガン「子どもたちの笑顔のために！夢・希望 未来を育む」心を離さず、目を離さず、手を離さず、「をテーマに、子どもたちの心の力、生きる力、道徳心を育んでいきたいと様々な活動をしています。

事業内容としては、フロック情報交換会をはじめ、母親代表者会議、演奏会、ネット講習会、そば打ち親睦会、スポーツ大会、親子子育てトーク会などを開催しています。

また、単位PTAが各委員会に分かれて委員会活動も行っています。今年度は、地域学校教育委員会が「地域の繋がりが町の元気に繋がるプロジェクト」。家庭教育委員会が「親子で学ぶ地産地消食育料理教室・もぐもぐ大作戦」。生活環境委員会が「いじめ防止標語親子メッセージコンクール・いじめ対策」を展開しています。

その他、総務委員会では「市長、教育長と語る会、ホームページの運営、福井市PTA広報誌の作成など」を行っています。特別委員会ではその年度ごとに特色ある活動を行い、今年度は被災地支援を主眼として「福島ひまわり里親プロジェクト、被災地支援図書回収即売会、スマイル運動、親子ふれあいステージ」を開催いたします。

さらに連合会全体としては、福井市PTA研究大会、東日本大震災被災地交流事業、いきいき事業奨励校表彰、いじめ問題への取り組みなどを行っています。そして、毎月の常任理事会と運営会議、委員会会議、フロック会議を開催しています。

子どもたちの大切な命、心を守り、支えていくのは親の務めです。日々の家庭教育のあり方を見直し、心を離さず、目を離さず、手を離さず、温かく安心できる居場所づくりが大切と考えます。役員全員が子どもたちのために、思いを一つに全力で取り組んでいます。



編集後記

男気で受けた県P広報委員長、メインの活動内容は？広報紙発行、よし今年の委員会の色出そう、まずは見た目のインパクト、委員会の味の旨み出るし、PTA会員の皆さんにもひと味変わった感がわかりやすい。うん、そうしよう!

今回、色々委員会でお悩みのようですが、皆さんが思わず手にとって読みたくなるようなデザインを心がけて作成しました。記事内容については有能で素晴らしい記者の方々からの投稿なので、私はメ切への心遣い、協力して頂いた印刷会社さんへの曖昧なイメージ助言を心がけました(笑)。おかげ様でご覧のような広報紙が完成しとても感謝しています。本当にありがとうございました。

最後に、記者の皆様・広報委員会の皆様、お疲れ様!そしてPTA会員の皆様、感想は事務局まで!次回112号も期待して下さい。

広報委員会 委員長 小林 満只